

学友会廃止絶対反対！ 学生は団結して闘おう！

第5波法大包囲デモ

○日時 7月6日（金）昼休み キャンパス集合
13時25分 総長室へデモ



3・14法大弾圧を許さない法大生の会

学友会廃止の核心は、 学生の団結破壊だ！

サークルの直接支配を許すな！

団結して闘えば勝てる！

平林総長が学友会を廃止して、法大当局が認めたサークルにだけ「サークル補助金」を出す制度にするとやっている。法大当局によるサークル直接支配であり、サークル全面解体への大攻撃だ。絶対に許すことが出来ない。

学友会廃止絶対反対の声をあげよう！

平林総長の狙いは、第一文化連盟などの学生団体をつぶすことを通して、学生の団結を破壊することだ。個別サークルでは、法大当局と交渉するのは大変だ。だから、各サークルは、サークル団体をつくって団結し、法大当局と団体交渉し、サークル活動の保障をかちとってきた。

学友会費などのサークル予算や、学生会館などの活動空間は、サークルが第一文化連盟などで団結して法大当局と闘ってきたからかちとれた。

平林総長は、サークルが第一文化連盟などに加盟して団結している事に恐怖している。学生は、自らの力に確信をもって団結して闘おう。

学友会とは？

代理徴収とは？

学友会は、第一文化連盟などのサークル団体、体育会や応援団など10の学生団体で構成されている。全法大生は学友会に加盟し、年間3300円の学友会費を授業料などと一緒に納めている（当局が学友会費を代理徴収）。学友会は、学友会費を学生団体に配分し、学生団体は加盟している各サークルに対して学友会費を分配する。

平林総長は、学友会費の代理徴収を来年度は行わないと言っているのだ。



ヒアリング＝個別サークル分断・ 取り込みを拒否しよう！

法大当局は、全サークルを呼びだしてヒアリングをやると言っている。

ヒアリングの狙いは、個別サークルの分断と取り込みだ。学友会廃止・サークル補助金制度に賛成するサークルをつくりだし、第一文化連盟などのサークル団体に分断を持ち込み、学友会廃止絶対反対で学生が団結させないようにすることだ。サークルの中に学友会廃止賛成の「裏切り者」をつくりだし、それを手先として学生の団結を破壊しようとしているのだ。

法大当局は、サークル活動を一番良く知っている学生の力を借りなければ、サークル補助金制度を具体化することなど出来ない。

だから、学生は学友会廃止絶対反対で団結し、ヒアリングを拒否すれば、勝利の展望は見えてくるのだ。

平林こそ何の展望も勝算もない。平林にやれることは、学生に対する恫喝と金による取り込みしかない。学生が団結して、学友会廃止絶対反対を貫いていけば、平林総長の側がどんどん危機を深め、学生の勝利は絶対に勝ち取れるのだ。

サークル活動をつぶして法大に何が残るのか！

サークルには、研究系、表現系、スポーツ系などがあり、自分たちの活動に誇りをもっている。法大当局が決めた一方的な基準・価値観で評価されるものではない。法大では、第一文化連盟などに多くのサークルが加盟しており、お互いが活動の意義を認め、学び合い、相互に批判・検証しながら質を高め、サークル間の交流・友情・団結をつくりだしてきた。学友会の廃止は、サークル間の「横のつながり」をも破壊するものだ。法政大学の良いところは、他大学にも例をみないほどサークル活動が活発に行われていることだ。サークル活動をつぶせば、法大に何が残るといえるのか。平林が法大をつくってきたのではない。学生がサークル活動などをやって、法大をつくってきたのだ。

サークル補助金は、学友会廃止を認めさせるための買収費用

サークル補助金でサークルが当局に支配される

法大当局は、学友会廃止に対する学生の怒りが爆発することを恐れて、「サークル補助金」制度なるもので学生をだまし、一部サークルを買収しようとしている。

法大当局は、「新制度スタート時は学友会費配分額と比べ、サークル全体として不利益が生じないように考慮する予定」と言う。08年度しか、学友会費で受け取れた額は保障しないのだ。

しかも、サークル補助金は、法大当局が決定権を握るので、サークルは法大当局に支配される。

法大当局は、サークル活動を保障する気など全くない！

平林総長は、①04年度、サークルの活動の拠点であった学生会館を一方的に解体し、②05年度には立て看板・ビラまきの規制を一方的に発表してサークル活動規制をやってきた。

法大当局は、立て看板・ビラまき規制に反対したサークルに対しては、外濠校舎の使用や教室貸し出しの禁止、立て看板の設置禁止を行っている。機関誌で法大当局を批判したことで、立て看板設置の不許可を受けたサークルもある（恐るべき言論統制）。

他大学では、演劇内容に当局が介入してサークルを大学から追い出したり、スポーツ系では大会で上位に入ったサークルには予算を多く与え、下位のサークルは予算を切り捨てることも起きている。大学の宣伝に貢献するかで判断されているのだ。

平林とは折り合いはつかない

サークル補助金をめぐって、サークル間で競争が強られる。基準は、「大学の知名度を上げたかどうか」などだ。サークルどうしで、金の取り合いなどやってはならない！サークル活動は、金のためにやってきたのではない！学生と平林総長は、非和解だ。折り合いをつけることなど出来ない。学友会廃止絶対反対で団結しよう。

3・14法大弾圧や退学処分は、サークル活動禁圧のためだった！

副学生部長・藤村耕治が言っていたことは大ウソだった！

法大当局は、5月18日や6月15日、28日の正門や中央広場の封鎖について、「キャンパス正常化のための措置」などと言っている。正門封鎖の原因は、退学処分・停学処分を受けた法大生が集会・デモを行うからだと言っている。そして、処分を受けた法大生が大学キャンパスからいなくなれば、法大は「正常」「平和」「自由」を取り戻すかのように言っている。

だが、学友会廃止によって、こんなものは全くのデタラメであった。

副学生部長の藤村耕治は、学生M君を研究室に呼びだし、

「中核派がいなくなれば法政は自由になる。自治会もつくれる。だから彼らに協力するのはやめろ。これは大学と中核派との戦争なんだ」と言って恫喝した。

(※M君は、法大の現実に悩み苦しみながらも、

藤村などの恫喝に屈せず闘いを継続し、今年4月に亡くなられた)。

藤村の言っていたこともウソだった。全てが学友会廃止というサークル活動の全面解体のために、平林独裁体制と闘う学生を逮捕や処分をもって追放し、学生を逮捕や処分の恫喝によって屈服させていくことだったのだ。

不当起訴と闘う新井・友部を取り戻そう！ 裁判闘争と一体で、学友会廃止阻止の闘いを爆発させよう！



安東学生部長などを追及する

500人の法大生（昨年5月）

平林総長の法大支配は破綻した！ 学生が法大の権力を握ろう！

学内矛盾は限界に達している！

団結して闘えば勝てる！

平林は、総長選挙を廃止し、学友会を解体しなければ法大を支配出来ない所にまで追いつめられている。

平林は、毎年学費を値上げして金をまきあげ、「フリーターになりたくなかったら、資格を取って差をつけろ」と言って学生を競争に駆り立てている。

学友会廃止で、学生を授業に縛り付けて資本の奴隷にしようとしている。

平林は、定員より多く入学させて多額の入学金を得たり、法政一高の跡地を住民の反対を無視して長谷工に100億円で売るなど、金儲けばかり。

清掃や守衛などの大学業務を外注化して低賃金を強制し、当局に批判的な職員は異動。反対意見を無視して新学部を立ち上げ、教員の数が足りずに文部科学省から指摘されても、次々と新学部をつくる平林。文学部教授の不正経理に常務理事が関与。学内矛盾は限界。いつクラッシュしてもおかしくない。

集会を妨害するために正門などの封鎖を行う平林。学友会廃止を打ち出した平林。法大の主人公は学生なのに、平林の私物になっている。

学生が団結すれば平林に勝てる。学生42人の逮捕、新井君や友部君の不当起訴、退学・停学処分は見せしめではない。学生全員を処分など出来ない。闘う学生が50人、100人と生まれるだけで勝利できる。一文連・二文連・学団連のサークルが団結するだけで、絶対に勝てる。勝てる闘いはやらなきゃ損だ！ 破滅に突き進む平林を打倒し、学生が法大の権力を握ろう。



闘う労働組合が必要なように、 闘う学生団体の再生が必要だ！

「労働運動の力で革命をやろう」

労組解体に突き進む安倍政権

年金制度や介護保険制度は崩壊、食の安全も崩壊、国の借金は過去最高を更新中、イラク戦争は泥沼化、青年の二人に一人は一生フリーター。労働者が生きていけない社会だ！

これに対して、青年労働者は「労働運動の力で革命をやろう」と訴え、闘う労働組合を自分の職場につくる闘いを始めた。3月18日と6月9日に、革命を訴えるデモを行った。労働者が労働組合で団結して革命やる時代が来た。

安倍政権は、戦争・改憲・福祉解体、民営化、増税、雇用破壊をさらに進めるためにも労働者の団結組織＝労働組合の解体に突き進んでいる。

労働組合の解体は、法大で言えば学生団体の解体だ。平林は、学友会を解体しなければ、学生が団結して決起すると思っている。

学生は第一文化連盟などの学生団体で団結しよう。学生団体を闘う学生団体として再生しよう！

団結すれば勝てる！



革命を掲げて車道いっぱい
に広がった6・9デモ

動労千葉（国鉄千葉動力車労働組合）のように闘おう！

ストライキで団結する労働組合

学生が団結して勝利するために格好のお手本がある。動労千葉の闘いだ。

動労千葉は、1987年の国鉄分割・民営化という労働組合解体攻撃に対して、唯一ストライキを闘って団結を維持して闘ってきた労働組合だ。

動労千葉は、JR体制になってからも、JR東日本が営利目的のために安全対策を切り捨てることに対して、「闘いなくして安全なし」を掲げ、安全運転闘争やストライキを闘ってきた。これを動労千葉は組合員の団結で実践してきた。

社会を動かしているのは労働者

動労千葉は、「電車を動かし、電車やレールを整備し、駅の業務を行っているのは労働者だ。JR資本ではない。資本は邪魔なだけだ。労働者だけで全部うまくやることができる。資本家はいらぬ。労働者に権力をよこせ」と訴えている。労働者こそ社会の主人公だという誇りをもって闘っている。

世界に広がる動労千葉の闘い

国鉄分割・民営化から20年がたった。動労千葉の闘いは、世界に拡大している。動労千葉の呼びかけで、毎年11月には国際連帯労働者集会が行われ、日本の闘う労働組合や、韓国の民主労総、アメリカのILWUやAMF Aなどの闘う労働組合が集まって、「労働者には国境はない」「全世界の労働者の団結で世の中を変えよう」という闘いが発展している。

動労千葉は、組合員が徹底的に討論し、組合員の団結で闘って勝利している。執行部が資本とボス交などは絶対にしない。動労千葉の闘いに学び、学友会廃止を阻止しよう。詳しくは、『俺たちは鉄路に生きる2』に書かれている。必読！

